

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## 歯ブラシによる口腔内外傷 (No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例3)

事例	年齢：1歳3か月 性別：男児 体重：10.5 kg 身長：74.5cm
傷害の種類	刺傷
原因対象物	歯ブラシ (こども用歯ブラシ 6か月から 仕上げ磨き用)
臨床診断名	下咽頭刺傷 気腫(咽頭後壁から上縦隔)
医療費	474,890円
発生状況	発生年月日・時刻 2018年 1月 17日 午前8時30分頃
	発生時の詳しい様子と経緯 母親から聴取 児が座って歯磨きをしている時に、3歳の兄が背後から覆いかぶさった。歯ブラシが児の咽頭に刺さり、出血を認めたため、救急要請した。歯ブラシは母親が抜去した(図1、2)。 発生時には本児のほか、母親、3歳の兄、双子の姉(1歳3か月)がいた。
治療経過と予後	救急車で医療施設へ搬送され、頸部・胸部X線検査、頸胸部CT検査と耳鼻科医師による喉頭ファイバーの検査を施行された。喉頭ファイバーで右側咽頭後壁の刺傷を認め、頸部X線検査(図3)、頸胸部CT検査(図4)で上咽頭から上縦隔に気腫を認めたため、精査・加療を目的に小児科へ入院した。入院後は抗菌薬が投与された。入院10日目に単純および造影CT検査を実施したが、膿瘍形成などの合併症なく(図5)、入院11日目に退院した。退院前に歯磨きの仕方・再発予防に関して指導を行った。また退院後に市の保健師による家庭訪問を実施し、家庭内での外傷予防を企図し、養育環境を整えるための支援を行なった。



図1  
歯ブラシが 10 cm程度口腔内に入っていたこと

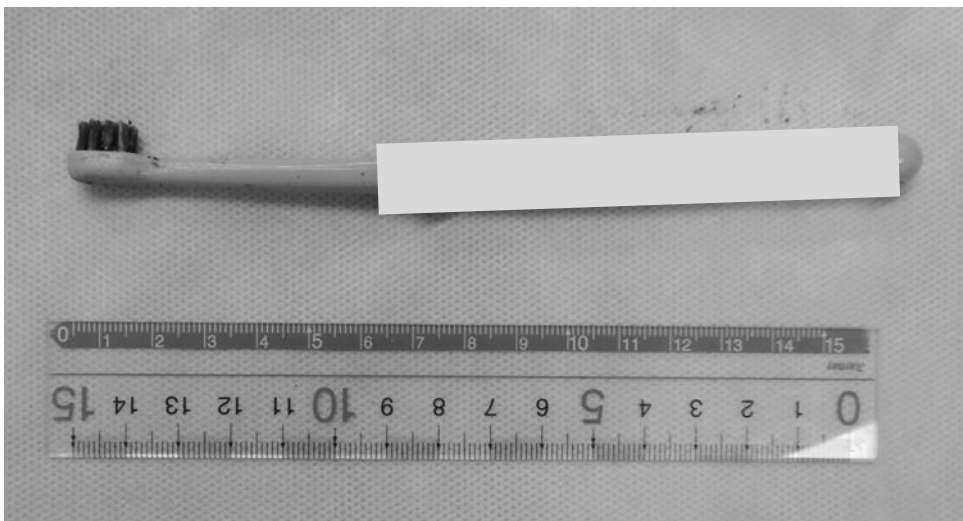


図2  
実際の歯ブラシ

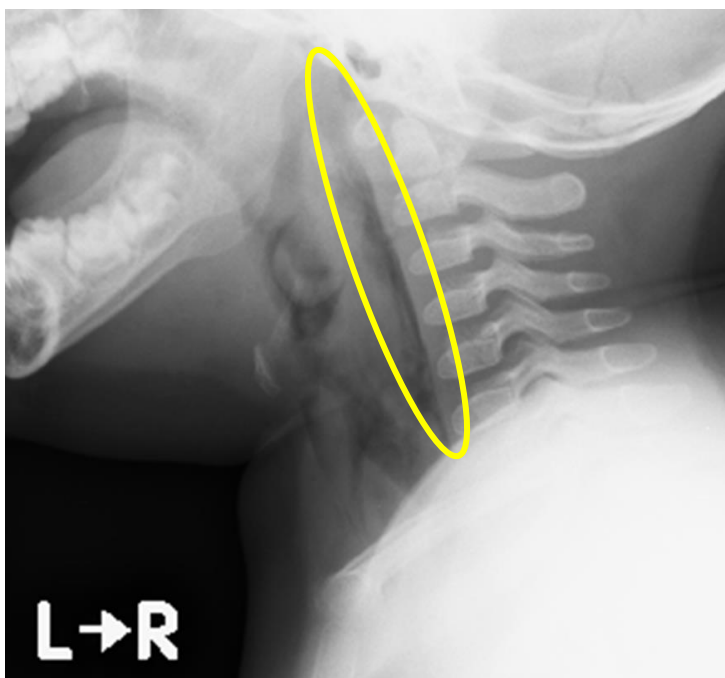
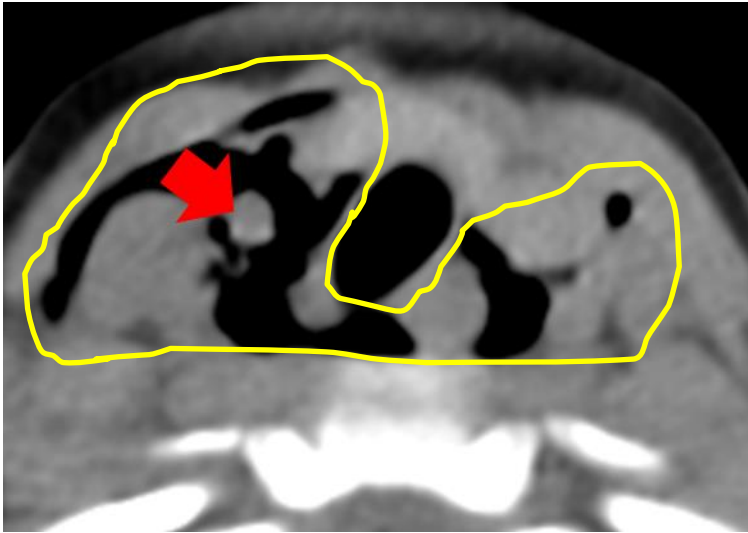
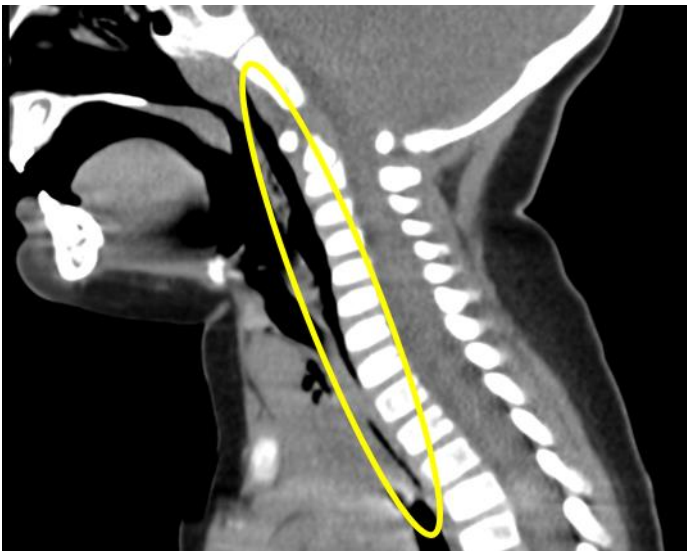


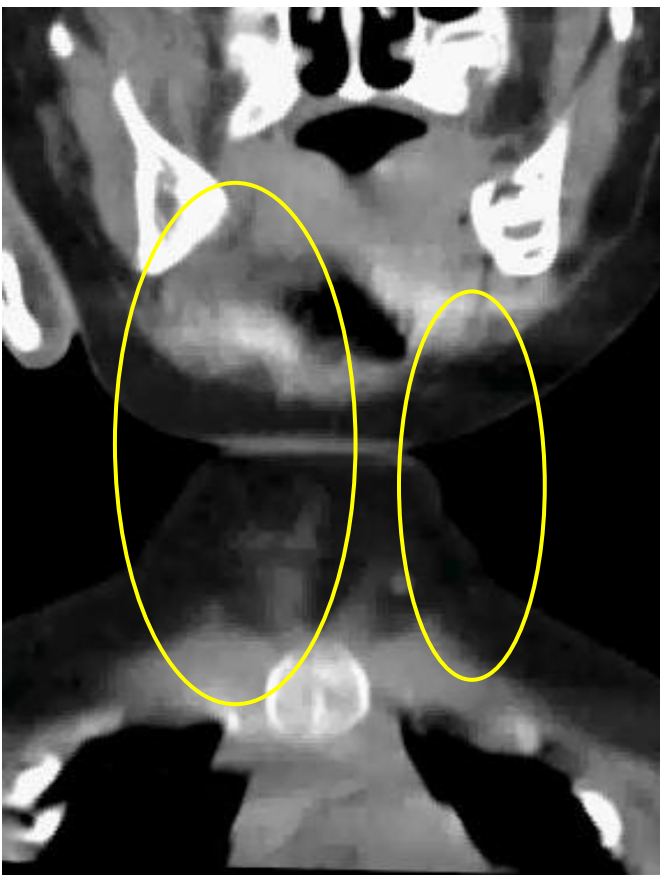
図3  
頸部の気腫



軸位断



矢状断



冠状断

図4 頸胸部 CT (単純)  
上咽頭から上縦隔に及ぶ広範な気腫像あり  
総頸動脈(矢印)が気腫に覆われている状態

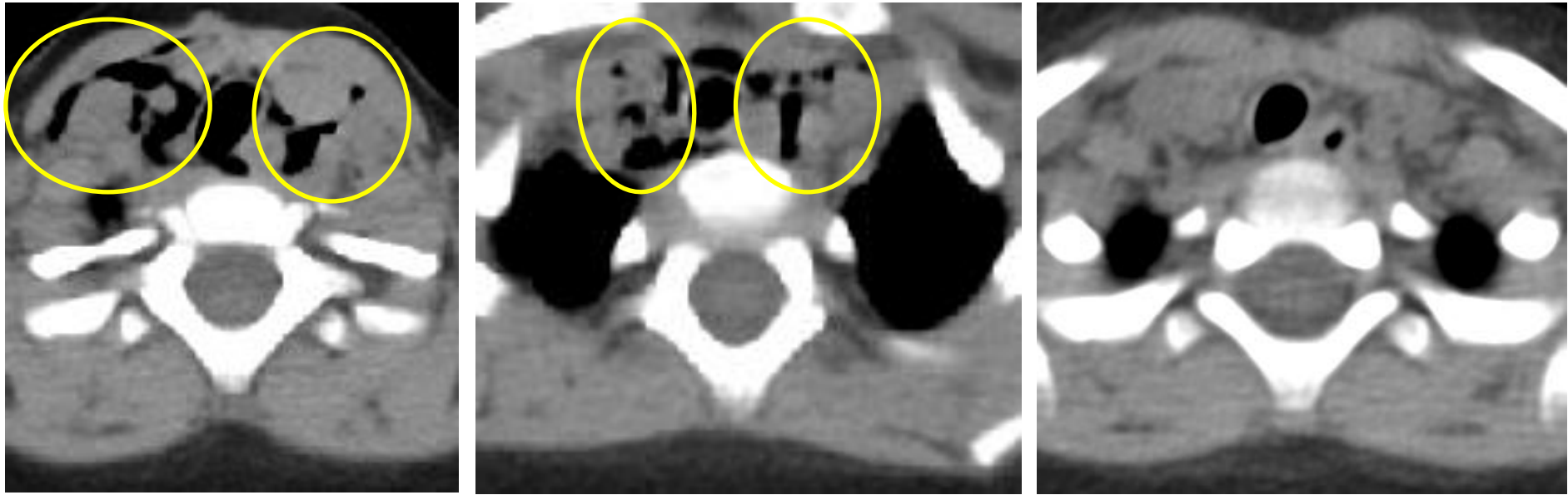


図 5 頸胸部 CT 画像（軸位断）

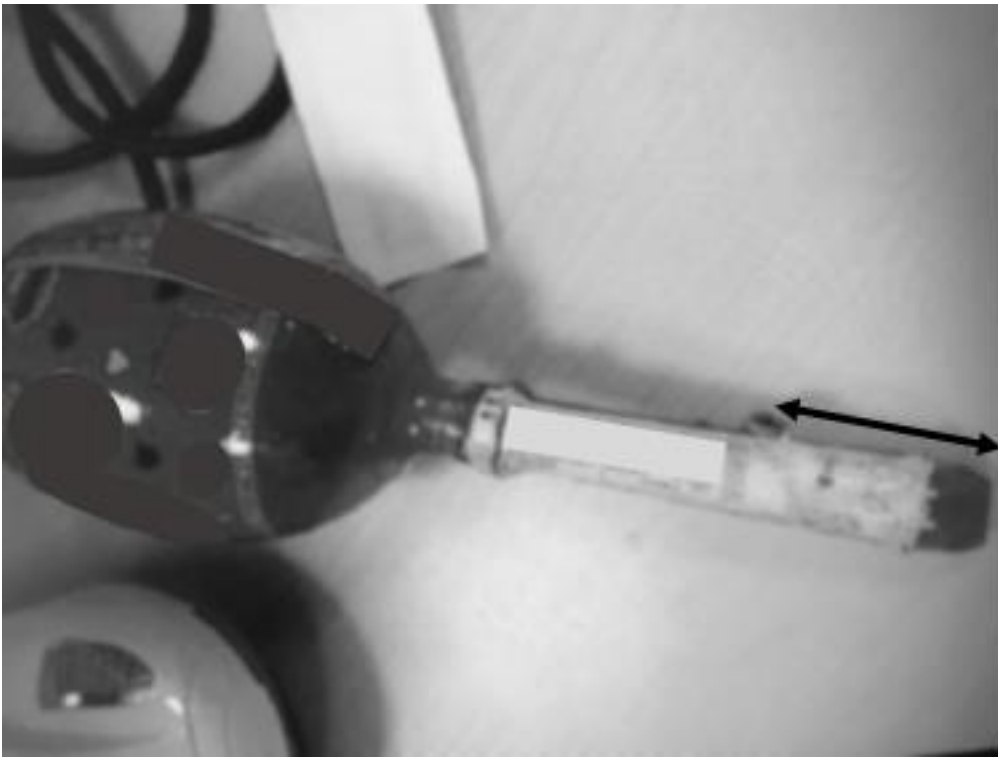
気腫は徐々に改善し入院 10 日目には消失した。深頸部膿瘍の形成なし。

## Injury Alert (傷害速報) 類似事例

## 笛型おもちゃによる口腔内外傷 (No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例4)

事例	年齢：2歳5か月 性別：男児 体重：9.7kg 身長：84cm	
傷害の種類	刺傷	
原因対象物	笛型おもちゃ	
臨床診断名	左軟口蓋挫創	
医療費	611,740円	
発生状況	発生場所	自宅廊下
	周囲の人・状況	双子の姉と笛型のおもちゃを持って追いかけてっこをしていた。成人の目撃者なし。
	発生年月日・時刻	2018年5月13日 午後5時30分
	発生時の詳しい様子と経緯	自宅廊下(クッションマットを敷いている)で双子の姉とプラスチックの笛型おもちゃ(図1)を持って追いかけてっこをしていた。成人は父のみが在宅していたが、児からは目を離していた。泣き声に気づき様子を見に行ったところ、口に笛型おもちゃを咥えた状態で転倒している本児を発見した。しばらくして口腔内から出血を認め、唾液に血が混じり口から流出する状態となった。軽度の嘔声を認め、笛型おもちゃを口から取り出し口腔内を確認したところ、軟口蓋に挫創を認め、かつ創部が深い様子であった。原因となった笛型おもちゃは、笛型の先端から5-6cm程度口腔内に入っていた。母の帰宅を待って小児科救急外来を受診した。
治療経過と予後	外来受診時には活動性出血は認めなかった。深達度の評価のために頭頸部造影CTを撮影した。左扁桃近傍に低吸収域を認め、外傷性変化と考えられたが、明らかな血腫や血管損傷は認めなかった。頭蓋底や頭蓋内にも異常を認めなかった。耳鼻科医による診察の結果、手術適応はないと判断され、入院の上保存的加療の方針とした。感染予防として抗菌薬の静注を開始し、入院3日目に飲水開始のタイミングと同時に抗菌薬を内服へ変更した。入院5日目よりペースト状の食事、入院6日目より普通の食事を開始した。その後発熱や膿瘍形成など明らかな創部の異常を認めず経過したため、入院10日目に抗菌薬の投与を終了し、退院となった。退院1週間後に耳鼻科外来にて経過を確認する予定である。	

図1 笛型おもちゃ（矢印の範囲が口腔内に入っていた）



## Injury Alert (傷害速報) 類似事例

## 歯ブラシによる口腔内外傷 (No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例5)

事例	年齢：3歳6か月 性別：男児 体重：19kg 身長：100cm
傷害の種類	刺創
原因対象物	歯ブラシ
臨床診断名	上咽頭刺創
医療費	1,263,570円
発生状況	発生年月日・時刻 2018年8月X日(金) 午後9時15分
	発生時の詳しい様子と経緯 生来健康な児。いつも通り父に歯磨きをしてもらうため、自宅の2階の寝室の布団の上に置かれた枕に座って父を待っていた。父は、本児に歯ブラシを渡した後、階下にいた母に呼ばれたため、本児に背を向けて数秒間本児から眼を離した。直後、本児のくぐもった泣き声に気づき父が振り返ると、本児が布団の上に側臥位で倒れており、歯ブラシが本児の手から離れて右口角から口腔内に刺さっていた。すぐに父が救急要請し、医療機関を受診した。
治療経過と予後	受診時、歯ブラシは本児の咽頭に刺さったままの状態であった(図1)。持続する口腔内の出血はなく、呼吸・循環は安定しており、かろうじて単語発声は可能な状態で意識レベル・神経学的所見ともに明らかな異常を認められなかった。造影CT(図2)では、歯ブラシは右扁桃から咬筋へと約1.5cm刺さっていた。歯ブラシの周囲に気腫を認めたが、内頸動静脈損傷や膿瘍形成を疑う所見は認められなかった。手術室にて全身麻酔・気管挿管管理下で、耳鼻科医により歯ブラシが抜去された(図3)。歯ブラシの破損はなかった(図4)。抜去部位からの持続性出血はなく、深さ約2cmの汚染創であったため、創閉鎖による感染のリスクを考慮し、創部の入念な洗浄のみ行い、縫合は行わず開放創のままとした。術後は挿管管理のまま集中治療室へ入院となった。抗菌薬を投与し、その後縦隔気腫への進展や膿瘍形成は認められなかった。入院4日目に創部が閉鎖したことを確認し、抜管した。3日間の一般病床管理後、入院7日目に退院となった。退院後も合併症を認められなかった。



図1 来院時

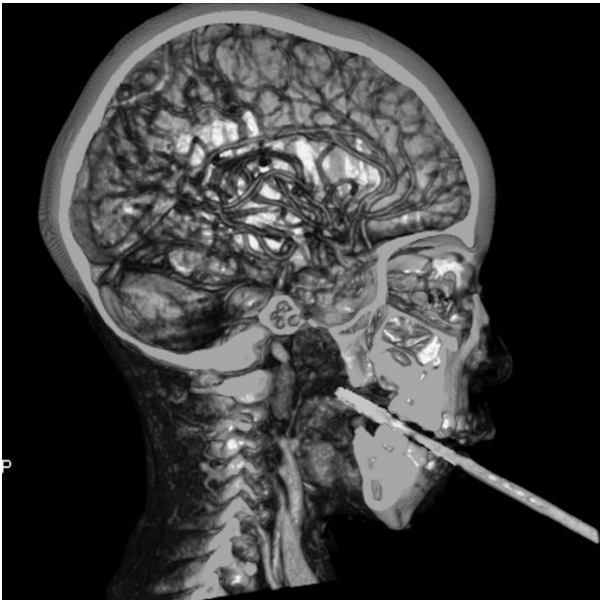


図2 造影 CT(3D 再構成)

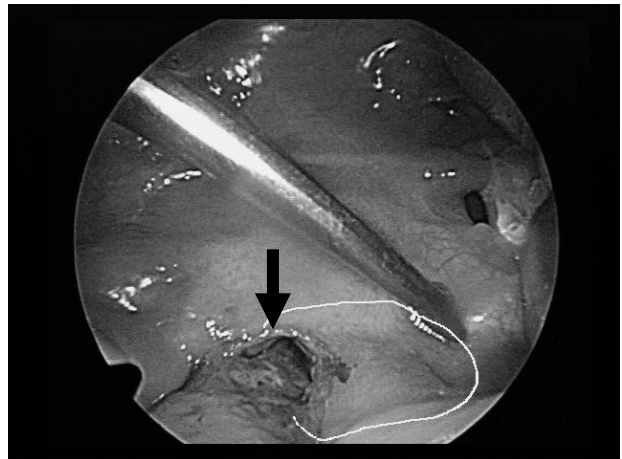


図3 術中写真。矢印は歯ブラシが刺さっていた箇所。



図4 抜去された歯ブラシ



## Injury Alert (傷害速報)類似事例

## プラスチック製玩具のラッパによる口腔内外傷(No.34歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例6)

事例	年齢：2歳10か月 性別：女児 体重：10.5kg 身長：78cm	
傷害の種類	刺傷	
原因対象物	プラスチック製玩具のラッパ (長さ20cmほど。商品名、製造業者不明)	
臨床診断名	咽頭裂傷、咽後間隙から縦隔にかけての気腫	
医療費	入院 582,690円 外来(1日) 3,110円	
発生状況	発生場所	自宅の室内アスレチックを置いている部屋
	周囲の人・状況	同じ部屋に居たのは児と4歳の姉のみ。母が別の部屋で家事をしていた。
	発生年月日・時刻	2015年 11月 3日 午前 10時 30分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	児が玩具のラッパ(写真参照)をくわえたまま、滑り台やブランコの付属している室内遊具で遊んでいたところ、階段2段目くらいから転倒し、ラッパで口腔内を受傷した。4歳の姉が目撃しており、ラッパを持って母に知らせに来た。その後患児が泣きながら母のところにやって来たところ、口腔内より出血が見られたため救急要請した。救急隊到着時は止血しており、そのまま経過観察となった。その後発語無く、流涎が続き、水分摂取も困難なため夜間救急センターを受診した。38.3度の発熱あり、血液検査にてWBC 13100/ $\mu$ l、CRP 1.1mg/dL、Hb 12.7g/dLであり、輸液と抗菌薬の投与を受けた。その後精査加療目的に紹介入院となった。
治療経過と予後	咽頭後壁から右扁桃にかけて発赤、右扁桃に白苔付着あり。CTで咽後間隙から縦隔にかけて気腫を認めたが、明らかな膿瘍形成は認められなかった。玩具による咽頭裂傷、創部感染、縦隔気腫として、絶飲食、抗菌薬で加療開始した。入院3日目に血液検査、頸部造影CT施行し、炎症反応低下、気腫は消退傾向であった。その後も加療継続し、膿瘍形成を疑う所見無く経過したため、入院5日目より飲水を開始した。入院7日目に血液検査にてCRP陰性化を確認し食事を開始とした。食事開始後も頸部痛や発熱などなく、順調に経過したため、入院8日目に抗菌薬の投与終了し、入院9日目に退院した。	



## Injury Alert (傷害速報) 類似事例

ポリ塩化ビニル製ラップの芯による口腔内外傷

(No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例 7)

事 例	年齢：2歳4か月 性別：男児 体重：14.0kg 身長：91.2cm	
傷害の種類	挫創	
原因対象物	ポリ塩化ビニル製ラップの芯（直径25mm程度、30cm×50m、図1、2）	
臨床診断名	口腔内挫創	
医 療 費	116,970円	
発 生 状 況	発生場所	自宅寝室
	周囲の人・状況	直前まで兄(4歳)が本児とともにベッドに座っていた。傷害発生時、母は他の部屋にいた。
	発生年月日・時刻	2019年5月X日(木) 午前8時45分
	発生時の詳しい様子 と経緯	8時42分ごろ自宅寝室の高さ50cmのクイーンベッドの上に座って兄とテレビを見ていたのを母が確認していた。母はその後布団をたたむために他の部屋へ移動した。8時45分に本児が啼泣し、「本児がベッドから落ちた」と兄が呼んだのですぐに母が見に行ったところ、口腔と鼻腔から血液混じりの分泌物を出しながら本児が駆け寄ってきた。呼吸・意識は保たれており経過を見ていた。ラップの芯(図1,2)を咥えながら転落したと午後になって兄より知らされた。10時から午後1時まで午睡したが、起床後から口腔内に唾液をためる様子がみられた。昼食が摂れず、不機嫌になったため午後2時半に医療機関を受診した。
治療経過と予後	来院時、呼吸・循環は保たれ、意識は清明であった。軟口蓋に逆U字型の挫創(図3)を認めたが、すでに止血していた。嚥下困難による流涎を認めたが、吸気性喘鳴は認められなかった。耳鼻咽喉科医により喉頭ファイバースコープが施行されたが、咽頭後壁に腫脹はなく、喉頭の浮腫も認めなかった。痛みにより経口摂取ができないため、同日に入院したが、翌朝には疼痛なく普段と同じ量を摂取できるようになったため退院とした。退院4日後に再診としたが、軟口蓋の発赤は消失していた(図4)。継続して普段通り経口摂取できていたため終診とした。	

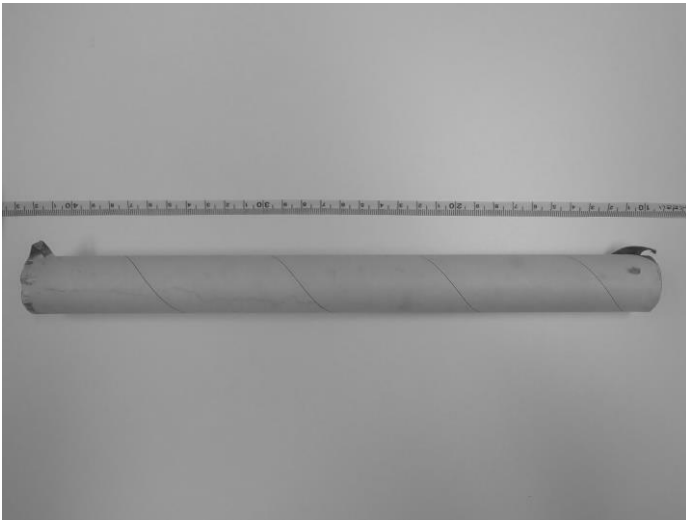


図 1. 約 40cm のラップの芯、先端に血液が少量付着している。

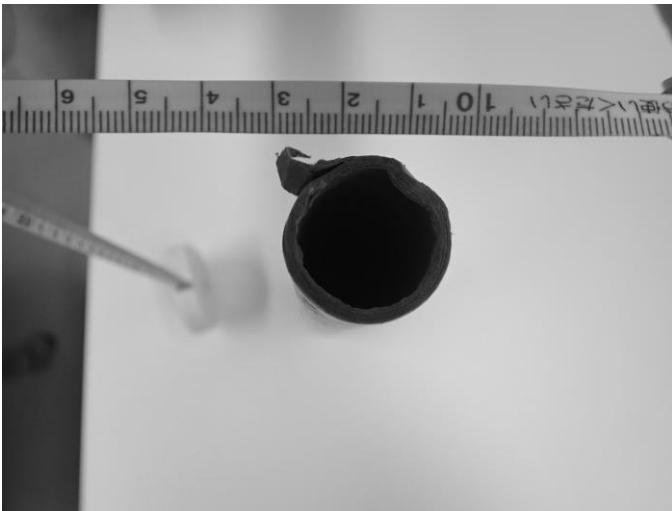


図 2. ラップの芯の直径は 25mm であった。

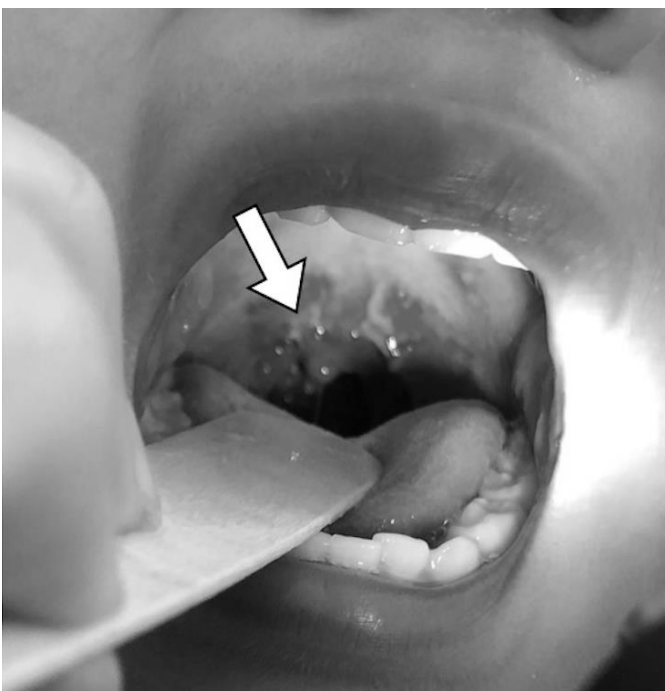


図 3. 軟口蓋に逆 U 字型の挫創あり、流血は見られなかった。



図 4. 退院 4 日後の軟口蓋に発赤は消失していた。